

より活発な
議会を目指して

タブレット端末を導入しました

市議会では、迅速な情報提供、会議案内、会議のペーパーレス化、資料の電子化等により議員の公務の効率化を図るため、タブレット端末を導入し、8月21日の全員協議会、9月定例会で使用を始めました。

膨大な資料がタブレット1つで閲覧でき、その場で調べることも可能であることから、議論をより深化させることができます。

タブレット端末の導入については、平成27年に議会改革調査特別委員会において検討していくことを決定して以降、プロジェクトチームを設置するなどして検討を重ねてきました。今年度は紙資料とタブレットを併用し、来年度以降は全ての会議において、予算・決算書等の一部を除き、紙資料は配布しない予定です。

これまで配布していた紙資料が大幅に削減されるほか、郵送や電話で伝えていた連絡事項もチャットツールで提供できることから、迅速な情報共有や省資源化が期待されます。

今後は、公務に加え、災害時の情報共有や、市民への分かりやすい情報提供などの政務活動にも活用していきます。

検討の経過

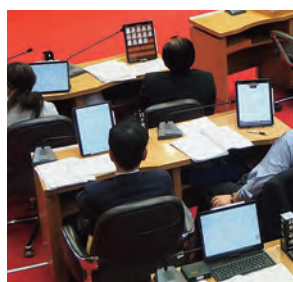
平成27年 6月	議会改革調査特別委員会運営小委員会において、タブレット端末の使用について検討することを決定
12月	タブレット導入プロジェクトチームを6名体制で組織 平成28年4月までに7回の会議を開催し、調査・検討を行った
平成28年 4月	議会改革特別委員会において導入を推進することを決定 市長に対し、タブレット端末の導入を要請
平成29年 11月	「気仙沼市議会における情報通信機器の使用基準」を制定
令和2年 7月	「気仙沼市議会タブレット端末使用基準」を制定
8月	タブレットを導入 タブレット操作講習会を実施 全員協議会で初めて利用
9月	9月定例会で利用



導入のメリット



市民の皆さまへ市政情報の分かりやすい説明



豊富な資料による議論の深化

作業量・配布時間
紙・コピー代
郵送料
重量

DOWN

効 率
スピード
分かりやすさ
議論の内容

UP



事務局や議員間での迅速な情報伝達・情報共有



ペーパーレス化による省資源化、事務作業量軽減

委員会活動(所管事務調査)報告

例年は、行政視察の実施状況を報告していましたが、今年度は新型コロナウイルスの対応に係る財源確保のため、視察を中止していることから、委員会が所管する事務を調査した状況をお伝えします。

小中学校の新型コロナウイルス対策などを調査

新型コロナウイルス感染症対策について、小中学校における具体的な取り組みと、「適応指導教室(通称「けやき教室」)」「子どもの心のケアハウス」事業の運営状況等と課題、並びに「放課後子ども教室」について、市の担当部局から説明を受けました。

「新しい生活様式」の定着を

小中学校では、文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」や「学校の新しい生活様式」に基づき、3密を回避するための座席配置や換気、マスクの常用、手洗い等、学校における感染リスク



説明を受ける委員

総務教育 常任委員会

8月25日

を可能な限り低減し、児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、様々な対応をしていました。
不登校児童生徒への支援

けやき教室では、長期間にわたり不登校となっている児童・生徒を対象に、学習活動や調理実習等の体験活動等、一人一人に適した支援を行っています。

子どもの心のケアハウスでは、不登校や不登校傾向、別室登校の児童生徒に対して、心のケア及び学習支援・学校復帰・教室復帰の支援を行うほか、保護者からの相談にも対応しています。より効果的な活用につなげるため、保護者や地域への周知が課題とこのとでした。

放課後の学校を交流の場に

放課後の学校の空き教室や体育館等を活用し、地域住民が教育委員会と協力し、学習活動や体験活動、交流活動等の機会を設けます。市内では月立小学校において、「月立小スクールサポートスタッフ「こだま隊」が参画して毎週水曜日に実施しているとの説明を受けました。

新型コロナウイルスへの対応や影響を調査

松岩保育所と牧沢きぼう保育所の連携と、気仙沼南地区高齢者相談室、気仙沼市立病院の今後のコロナ禍の対応等について調査するため、市の担当部局から説明を受けました。

保育所では交流事業が中止

新型コロナウイルスの影響により、松岩保育所、牧沢きぼう保育所では、昨年度末や今年度に計画していた入所児童の交流事業が中止または延期となっています。

また、気仙沼南地区高齢者相談室では、生活援助員(LSA)が通常の訪問ができず、電話や玄関先での対応となり、顔が



牧沢きぼう保育所を視察する委員

民生 常任委員会

8月6日

見えにくいことや、お茶会や自治会主催のイベント等が開催できないことから、高齢者等でコミュニケーションの機会が減っていると報告を受けました。

市立病院の対応

気仙沼市立病院は、第2種感染症指定医療機関として、県の要請に基づき、4月7日から5月21日までの間、新型コロナウイルス患者の入院に対応できるよう感染症病床4床と一般病棟50床を管理区域と設定し、確保しました。今後も県からの要請に基づき、その都度対応していくとのことでした。

院内の感染リスク低下を目的に、発熱の有無で動線を分けるため、発熱トリアジを実施しています。課題として、発熱の把握が患者の自己申告のため、無自覚の発熱者等を取りこぼす恐れがあるため、サーモグラフィの設置に向け、準備を行っています。また、保健所のリーダーシップの下、感染症クリニックを含めた圏域の医療機関で、それぞれの役割分担と連携を進めているとの説明を受けました。